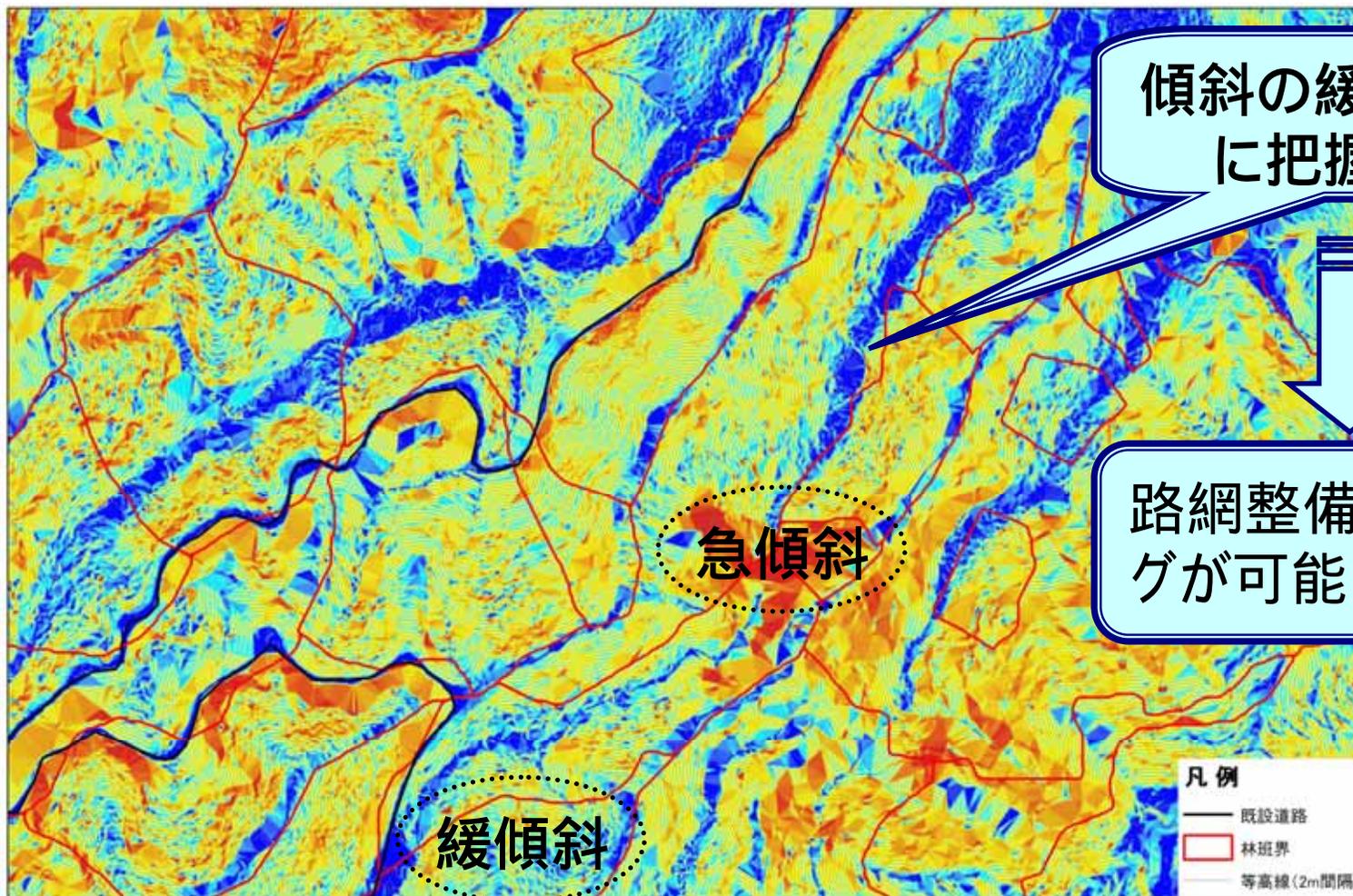


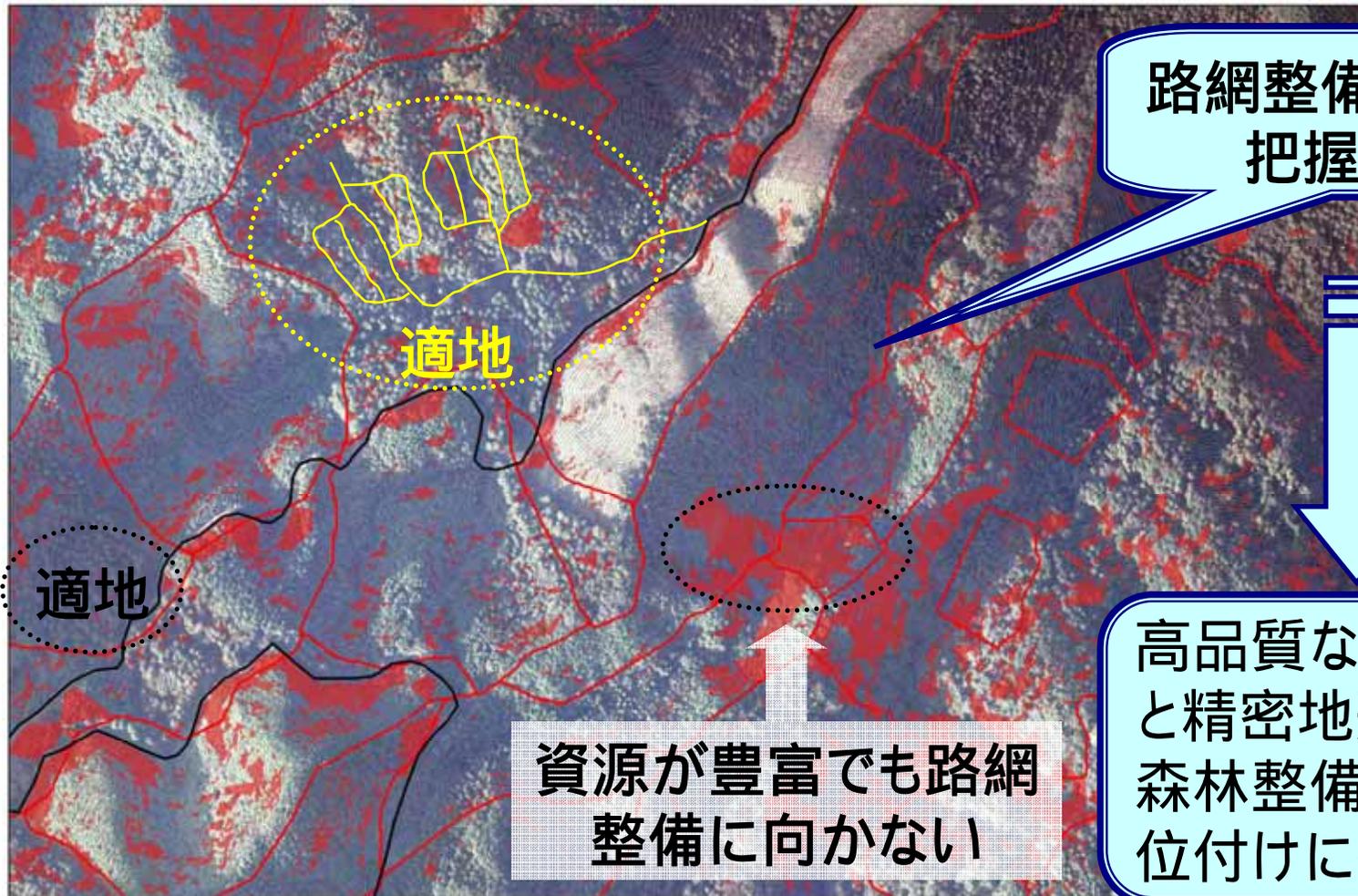
可視画像，精密地形情報の有用性 (路網整備)



傾斜の緩急が詳細に把握できる

路網整備のゾーニングが可能に

可視画像，精密地形情報の有用性 (路網整備)

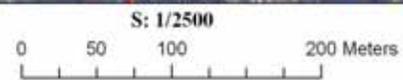


路網整備の適地が
把握できる

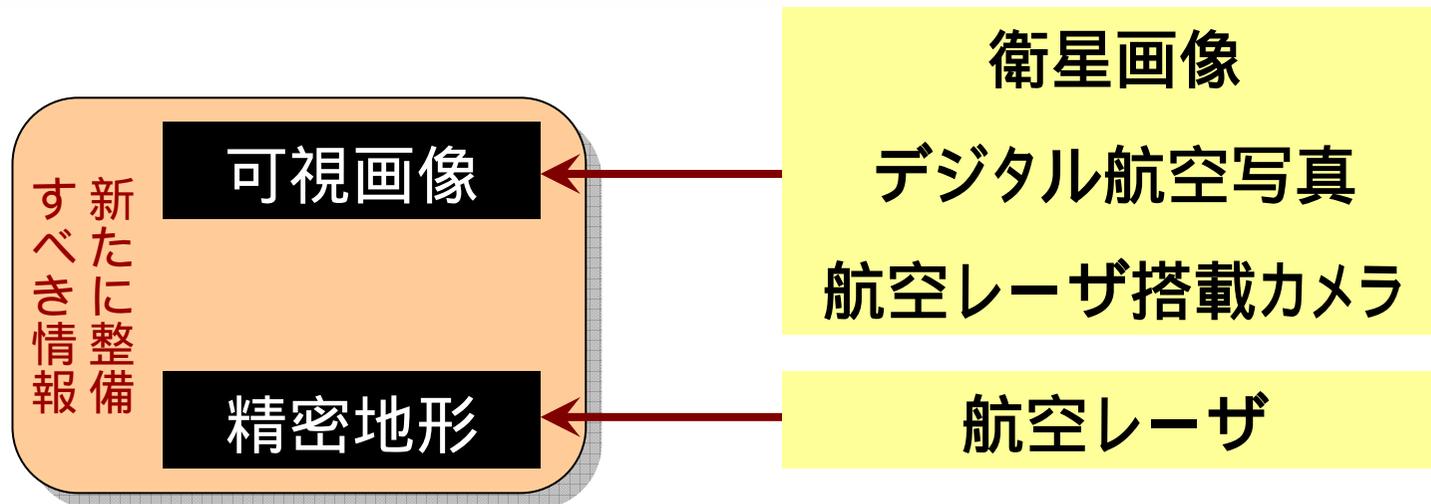
高品質な可視画像
と精密地形情報は
森林整備の優先順
位付けに有効



可視画像 + 急傾斜地



戦略的森林基盤情報整備の課題



整備費用が高価な点が最大の課題

例) 航空レーザ

■ 現状: 4万円/km²

■ 整備が必要なエリアを25万km²と仮定すると**100億円**

課題をクリアするための提案

- 基盤情報は情報インフラである
 - ◆ 水資源管理, カーボン・オフセット等への利用など, 波及効果も見込める。
- アイデア次第でコストの低減は可能
 - ◆ 整備済みデータの相互利用
 - ⊕ 河川, 砂防, 農業, 海岸等の事業で整備済みの画像データ, 航空レーザデータを活用する。
 - ◆ 受益者負担
 - ⊕ 森林域の情報整備は, 多くの機関(林野, 環境, 河川, 砂防, 都市, 農業, 自治体など)に恩恵をもたらす
 - ⊕ 恩恵を受ける機関でコストをシェアする仕組み
 - ◆ メンテナンスの工夫(CALSの概念)
 - ⊕ 地形情報は原則更新不要。可視画像は衛星画像で変化箇所のみ更新
 - ⊕ 整備後は, 個別事業のデータを組み込むことでメンテナンスコストを削減
 - ◆ 単価縮減のための工夫
 - ⊕ 大きなロットでの契約で共通経費を圧縮
 - ⊕ 業者の自主努力



相互利用の可能性

■ 画像データ

◆ 国土交通省

- ✦ 国土地理院：平野部を中心に**約19万km²**を整備予定

◆ 農林水産省

- ✦ 農村振興局：農地**約4.7万km²**を整備予定

■ 航空レーザデータ

◆ 国土交通省

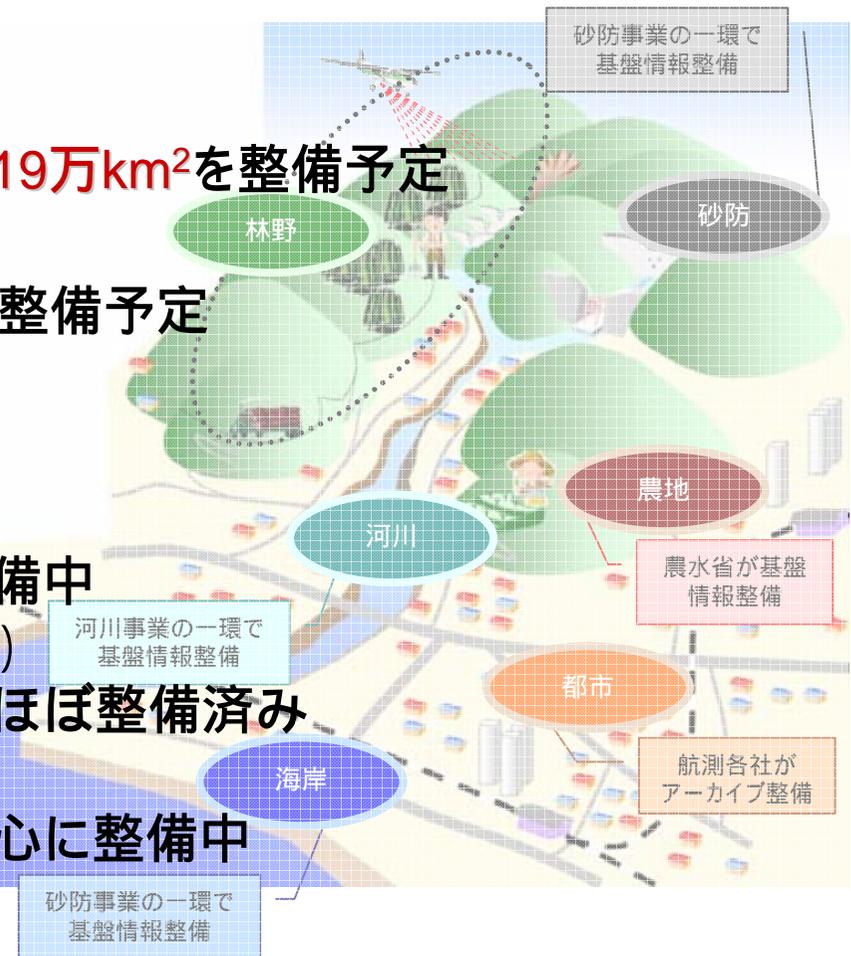
- ✦ 国土地理院：都市部を中心に整備中
(**推定約1.2万km²**)

- ✦ 河川事業：直轄河川氾濫域をほぼ整備済み
(**推定約9万km²**)

- ✦ 砂防事業：直轄砂防区域を中心に整備中
(**推定約2万km²**)

◆ 航測各社アーカイブ

- ✦ 都市部を中心に**約5.5万km²**を整備済み



まとめ

- 森林計画図(基本図), 航空写真, 森林GISは, 単体のみでは**品質に課題**がみられ, 戦略的なベースマップとしての使用が困難。
- 林地境界確定, 路網整備を効率的に進めるためには, 森林資源としての価値を判断し, **事業の優先度を評価**できる戦略マップが必要。
- 戦略マップとしては, **高品質な可視画像, 航空レーザに基づく精密な地形情報**が有効。
 - ➡ **戦略的森林基盤情報整備を提案**
- 基盤情報の整備における課題と対応。
 - ◆ **整備済みデータの相互利用**
 - ◆ **受益者負担**
 - ◆ **CALSの概念**
 - ◆ **単価縮減**